

## 近代産業の発展と山梨県

1. 活用資料・展開例に対応する、学習指導要領高等学校日本史探究Dの内容  
内容 「近代日本の形成とアジア」 「近代産業の発展と近代文化」

2. 活用資料例

(1) 「近代産業の発展と近代文化」への活用資料（例）

資料名	掲載県史	内容・出典
藤村県令道路開通告示	資料編 14 資料 32	産業の育のために東京・横浜方面へ向けての道路整備の必要を説く。 ----- 山梨県立図書館蔵県行政文書
出品点数の推移	通史編 5 P.53 表 32	第1回5回内国勸業博覧会への山梨県からの出品点数の推移表。 -----
曜齋国輝「山梨県勸業場之図」 山梨県勸業製糸場内の写真	資料編 16 口絵 1,2	山梨県勸業製糸場の錦絵および写真、規模を伺うことができる。 ----- 山梨県立図書館蔵・横浜開港資料館蔵
公益起業資本貸給ノ義上申 抜粋	資料編 16 資料 15	県より内務省への勸業製糸 整備資金の貸与申請文書、併せて道路整備資金についても申請あり。 ----- 山梨県立図書館蔵県行政文書
都留郡巡回演説筆記 抜粋	資料編 16 資料 16	県勸業課員による勸業政策の目的などについての説明、判りやすい平易な口語体で記す。 -----
甲信鉄道と山梨鉄道の計画路線	通史編 5p.273 図 4-1	両鉄道路線の計画路線比較図 -----
県内道路橋梁概略 抜粋	資料編 14 資料 38	民力を利用してスタートした産業資本整備の状況。 ----- 山梨県立図書館蔵県行政文書
歴代知事道路行政批判	資料編 14 P.273 口絵 5	青梅街道部分に「藤村大失敗」と見え、藤村県令(官)主導による整備を伺うことができる。 ----- 清水新氏所蔵
舞鶴城内聯合共進会開設之図	資料編 16 口絵 13	多くの銀行の名前を載せる。 -----

(2) 「近代日本の形成とアジア」への活用資料(例)

ア 明治維新と立憲体制の成立

資料編 14 近現代 1 政治行政 口絵 2 「大小切騒動新聞報道記事」 (地租改正)

資料編 14 近現代 1 政治行政 史料 13 「大小切租法廃止告諭」山梨県立図書館蔵県行政文書(地租改正)  
「皇国一視同仁」の主意による地域特有税制の廃止と民衆の抵抗

資料編 14 近現代 1 政治行政 史料 63 「〔徴兵忌避に対する郡役所諭達〕」 若草町役場蔵(徴兵制)  
徴兵忌避の状況等

資料編 14 近現代 1 政治行政 史料 65 「〔狭中新報発刊趣意〕」『狭中新報』(自由民権運動)  
民権派新聞としての、自由権利伸張を目指す発刊趣意

イ 国際関係の推移と立憲国家の展開

資料編 14 近現代 1 政治行政 史料 381 「出征者家族ノ状況」『山梨新報』(日露戦争)  
極限まで行われた兵力動員の実情

ウ 近代産業の発展と近代文化

展開例参照

3. 展開例

(1) 対象となる単元

殖産興業

(2) 目標

- ・明治期の殖産工業政策の目的を理解させ、人々の生活や意識に与えた影響を考察させる。
- ・日本の近代化政策が政府主導の改革であったことに気付かせる。
- ・地域の歴史が、日本史全体と直結したものであることを知り、地域に関する関心を喚起する。

(3) 展開例

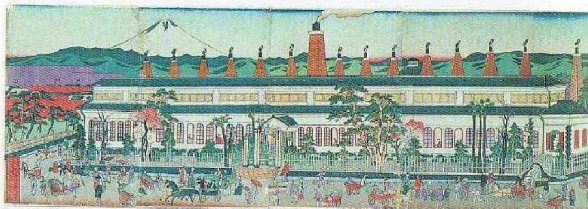
	学習内容	生徒の活動	提示資料	留意点等
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明治国家の目的</li> <li>・明治初年の貿易の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代国家の建設が最大の目的であったことを確認する。</li> <li>・教科書等の貿易額の推移グラフから、輸出超過から輸入超過への転換を知り、予想される影響をノートに記入する。</li> <li>・貿易赤字解消のための方策、そのために必要と考えられることを発言させる。</li> </ul>	資料編 14 近現代 1 資料 32〔藤村権令 道路開通告示〕抜 粹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地租改正など明治初期の諸改革の学習の確認。</li> <li>・貿易赤字の累積が近代化のマイナスとなることに気付かせる。</li> <li>・自由に発言させる。</li> <li>・産業の育成とインフラの整備が必要であることに気付かせる。</li> </ul>
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代産業の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内国勸業博覧会出品点数の推移を見て、急速な増加の理由を考え、ノートに記入させ、発表させる。</li> <li>・山梨県勸業製糸場内部の写真と教科書等の富岡製糸場の錦絵とを比較して感想をノ</li> </ul>	通史編 5 近現代 1 の P.53 表 2-1  資料編 16 近現代 3 口絵 1、2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急速な殖産興業政策の存在に気付かせる。</li> <li>・著名な官営模範工場以外にも、各地に公的な大</li> </ul>

	<p>トに記入し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・史料を読み、勸業製糸場運営のために公的資金が投入されていたことを知り、設立の目的を理解する。</li> <li>・史料から勸業政策について知り、内国勸業博覧会や連合共進会の開催の目的を理解する。同時に政策に対する反発がありながらも、効果があったことを理解する。</li> <li>・史料との関連から、駒場農学校、三田育種場、北海道開拓などについて理解する。</li> </ul> <p>・生産基盤の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・為政者の立場になり、整備するインフラをノートに記入させる。</li> <li>・県内産糸系を開港場へ運ぶことが最も有効であることに気付かせ、そのルートを考えさせる。併せて最初の鉄道開通が東京 - 横浜間であったことを知り、なぜこのルートになったかを記入させる。</li> <li>・道路県令藤村紫朗の産業資本整備が民力によってスタートし、挫折から鉄道誘致運動を経て、中央線建設に至る経緯を知る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を見て、銀行が多く設立されていることに気づき、理由を考えさせる。</li> <li>・海運、郵便、電信など他のインフラの整備や貨幣金融制度の整備についても知る。</li> </ul>	<p>資料編 16 近現代 3 資料 15〔公益起業資本貸給ノ義上申〕抜粋</p> <p>資料編 16 近現代 3 資料 16〔都留郡巡回演説筆記〕抜粋</p> <p>通史編 5 近現代 1 図 4-1 甲信鉄道と山梨鉄道の計画路線</p> <p>資料編 14 近現代 1 資料 38〔県内道路橋梁概略〕抜粋</p> <p>資料編 14 近現代 1 の P.273 口絵 5 歴代知事道路行政批判</p> <p>資料編 16 近現代 3 口絵 13 旧舞鶴城内聯合共進会開設之図</p>	<p>規模工場が設立されたことに気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製糸工場であった理由を発問して、輸出産業中心であったことにも気付かせる。</li> <li>・指導官庁として工部省、内務省、大蔵省事務局などの存在に気付く。</li> <li>・官主導の近代化であったことに留意させ、やがて役目を終えて払い下げに回されることに触れ、以降の学習と関連づけをはかる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の鉄道路線図や道路地図との比較・検討から、現代への連続性を印象づける。</li> <li>・なぜ民力に頼らなければならなかったかを考えさせる。</li> <li>・道路県令藤村紫朗の存在と同様の県令に福島県令三島道庸がいることと福島事件に触れ、自由民権運動の学習との関連づけをはかる。</li> <li>・銀行の他にも、葡萄酒醸造などの新しい産業が育っていることにも留意させる。</li> <li>・第十国立銀行(現</li> </ul>
--	---	---	---

			山梨中央銀行)の設立など、現在につながる身近な話題にも触れる。
まとめ 10分	・学習内容のまとめ	・本時の学習を通して、明治初年の殖産興業政策が輸出産業優先の上からの改革であったことを理解する。	

同単元では、県史以外の地域資料として山梨中央銀行金融資料館の資料(第十国立銀行券)などの活用も可能。同資料は松方財政などにも活用可能。

資料編 16 口絵 1



1 曙齋国輝「山梨県甲府勤業場之図」

通史編 5p.273 図 4-1

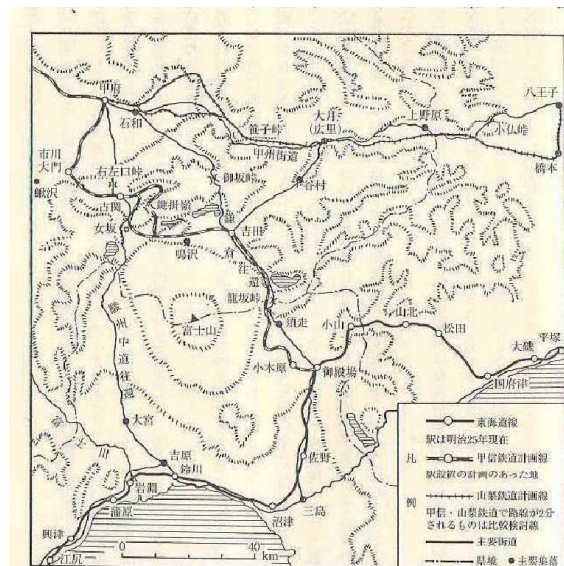


図 4-1 甲信鉄道と山梨鉄道の計画路線  
(青木栄一「富士山をめぐる交通網の形成」『富士山歴史』316ページ第2図より)

資料編 14 資料 32

第二節 藤村県政期

32 「藤村権令道路開通告示」  
 県立図書館蔵県行政文書  
 「県史明治七年四冊之内四」  
 明7・1・29

告示  
 (倉者達)二月  
 同月廿九日 道路開通告示ニ曰

運輸ノ利往來ノ便ヲ開クノ世道ニ益アリテ人間生ヲ営ム  
 ノ一大要務タル自他ノ交際ト物貨ノ流通トヲ拡充スルノ  
 根拠ナルハ皆ナ人其理ヲ通曉セリ。熟々管下ノ実況ヲ視  
 察スルニ、地味肥沃物産多ナリト雖ドモ四周ノ山岳崎  
 嶮ニシテ舟車運輸ノ便行旅必由ノ道ナシ。是故ニ人智ノ  
 開達ニ後レ物産ノ製造ニ疎ク毎ニ商法ノ機会ヲ誤ル者鮮  
 トセズ。当今世運開明ニ赴キ衆庶競テ各自ノ盛業ヲ謀リ  
 国家ノ富強ヲ助ケ奉ルベキ際ニ方リ漠然手ヲ束ネテ為ス  
 所ナクンバ、彼ノ富強ヲ奉助ハ姑タ舎テ、郡区歳月ヲ追  
 テ衰弊ニ就キ上ハ国家ニ報ズルノ効ヲ失ヒ下ハ一身ノ方

レ衆  
 者ヲ  
 地形  
 事カ  
 テ運  
 キニ  
 ク東  
 ヲ開  
 日一  
 ヲ測  
 ヲ以  
 ルニ  
 智ノ  
 豈ニ  
 ノ根  
 廣ク